

地域の特性が学生の大学選定に与える 影響度と生活満足度に関する研究

石井 信行¹・岡本 晃²・剣持 裕次³

¹正会員 博士（工学）山梨大学大学院医学工学総合研究部土木環境工学専攻（〒400-8511 山梨県甲府市武田 4-3-11,
E-mail: nobur32@yamanashi.ac.jp）

²非会員 修士 山梨大学大学院医学工学総合教育部土木環境工学専攻（〒400-8511 山梨県甲府市武田 4-3-11,
E-mail: g08mc004@yamanashi.ac.jp）

³非会員 旭商工社 山梨営業所（〒409-0041 山梨県甲府市上石田 4-15-4, E-mail: mail_to_yuzi@yahoo.co.jp）

本研究では6つの異なる地域に立地する大学を対象とし、学生が大学入学前、入学後に大学と地域に対してどのような考えを持っているのか意識調査により把握し考察を行った。その結果、①志望大学選定理由の影響度の構造が、7因子にまとめられること、②学生の興味があまり地域に向いておらず学生による地域活動の参加が定着していないこと、③「大学周辺の自然環境」について、都会に存在する大学でも、十分な緑があるならば高い評価を示すこと、④満足度については大学間での差が表れやすいこと、⑤学生からの評価が高い地域の特徴は、交通網や自然環境が整っていることが確認された。

キーワード: アンケート調査, 地域特性, まちづくり, 大学

1. はじめに

1990年代に始まった法的規制緩和による大学の施設ラッシュにより入学定員が大幅に増加した一方で、少子化による18歳人口の減少により大学全入時代に入り、大学は国公立、私立を問わず研究・教育・施設に個性を出し、より多くの学生を獲得しようと努力するようになってきている。そのような状況の中、受験生は首都圏の有名大学を志望する傾向が強まっているため、地方の大学にとって事態は一層深刻である。また、都市に目を向けてみると、地方においては中心市街地の空洞化や人口減少など、地域社会の衰退が問題となっている。

そのような状況の中で、地域とそこに立地する大学が協同し、地域は大学が立地していることをブランドと位置付け、大学が有する専門知識を文化や産業の振興、自然環境の保護等に活用し、また学生のまちづくり活動への参加を促す等しながら自らの活性化を図り、大学は立地する地域の魅力を活かしたキャンパスライフを提供することで、より多くの学生を引き付けることを図ると

いうまちづくりの形が考えられる。

しかしながら、一般に現在の受験においては受験校の決定に関わる判断材料として、大学の特色や研究成果はほとんど考慮されず、受験産業が算出している偏差値が極めて大きな影響を与えていると言われており、入試の面接等における回答もそのことを裏付けている。

そこで、受験生が大学を選定する際に、地域に対する意識、そして入学後の地域との関わりと評価を明らかにすることにより、大学が立地する地域のまちづくりに対して重要な示唆を与えると考えた。

2. 目的

本研究では、大学の重要な構成員である学生が大学入学前、入学後に大学と地域に対してどのような考えを持っているのかを調査票を用いた意識調査により把握、考察することを目的としている。また、異なる地域に立地する大学を比較し、地域の特徴が意識や評価に与える影響を把握、考察することも目的とする。

3. 対象

本研究では6つの異なる地域に立地する大学に通う学生を対象とした。都市部の文教地区に立地する早稲田大学、住宅地の文教地区に立地する大学のモデルとして一橋大学、郊外に移転した拓殖大学、地方に立地する信州大学（長野キャンパス）と山梨大学、そして学園都市に立地する筑波大学を選定した。

4. 研究の構成

本研究の構成は図-1のようになっている。



図-1 研究構成

5. 本研究の位置づけ

高校生に対する大学選定に関するアンケート調査は各種受験産業や多くの大学で行われているが、大学が立地する地域の特性との関連とその評価までを対象としているものはほとんど見られない。また、既往研究では大学施設と地域に着目した研究¹⁾が存在しているが、学生が大学と地域に対してどのような考えを持っているのかは明らかにしていない。

本研究は、アンケート調査を行い、その結果を単純集計および統計処理を行い分析・考察するという実績のある手法を採用し、これまで明らかにされていなかった、学生と大学立地との関係を対象としている点で独自性があると考えられる。

また、大学と地域産業との連携が推進され、また公開講座等さまざまな形での地域社会への貢献が求められている今日、その重要な構成員である学生と地域との関係について新たな知見を得ることは時宜を得ていると考えられる。

6. アンケートの設計

アンケート調査票は調査目的に基づき既存研究を参考に、8項目を設定した。程度を回答させる設問については、四者択一とし、「どちらでもない」という回答がないよう

にした。また、属性についての問は回答者が警戒心を持たずに素直に回答してもらうためにあえて最後に配置した。アンケート調査票は横書きA3サイズの両面印刷で作成した。

(1) アンケート調査票の内容

a) 志望大学選定理由の影響度

現役大学生が、所属する大学への入学を決めた際の要因に関する設問である。表-1に示す28の事項について「非常に影響を受けた」「影響を受けた」「あまり影響を受けなかった」「全く影響を受けなかった」の四者択一とした。

表-1 志望大学選定理由項目

番号	項目	番号	項目
1	大学自体の知名度・評判	15	友人・知人の薦め
2	大学の規模	16	学生の男女比
3	大学キャンパスの美観	17	実家と大学との距離
4	大学施設の利便さ	18	通学のし易さ
5	大学のISO14001取得の有無	19	大学所在地の公共交通の利便さ
6	大学教員の知名度実績	20	大学所在地の日常の買い物の利便さ
7	大学入試の難易度	21	大学所在地の物価(家賃や食費など)
8	センター試験の結果	22	大学所在地の経済の活性
9	学びたい分野の勉強ができること	23	大学所在地の災害に対する安全性
10	入学金・寄付金・授業料などの費用	24	大学所在地の犯罪に対する安全性
11	大学の資料やパンフレット	25	大学所在地の歴史・文化
12	オープンキャンパス	26	大学周辺の自然環境
13	親の薦め	27	地域との交流活動の存在
14	学校・予備校・塾などの先生の薦め	28	大学所在地及び周辺での余暇活動

b) 大学生生活満足度

大学に入学してからの学生生活に対する満足・不満に関する設問である。表-2に示す10項目について「大変満足している」「満足している」「不満である」「大変不満である」の四者択一とした。項目は大学または大学周辺に関する事項を主に設定した。

表-2 大学生生活満足度項目

番号	項目	番号	項目
1	講義内容	6	通学のしやすさ
2	大学内の施設(学食、販売店等)	7	下宿先(実家)での生活
3	大学周辺の施設(食事場所、娯楽施設等)	8	アルバイトの機会・職種
4	大学周辺の交通環境(交通網、洗濯等)	9	大学と地域との関係(連携事業等)
5	大学周辺の自然環境	10	総合的にみて

c) サークル・部活動

大学の志望動機、大学生生活満足度との相関関係がみられる可能性が考えられる為、サークル・部活動に関する問を設定した。文科系・体育系の二者選択、活動頻度と活動場所に関する「大学内」「大学周辺施設」「大学から離れた場所」の三者択一である。

d) アルバイト

大学生生活満足度、地域に対する評価との相関関係がみられる可能性が考えられる為、アルバイトに関する問を設定した。質問内容は、学内・学外の選択、職種の選択、時給、頻度、労働時間である。設定した職種を表-3に示す。

表-3 職種

番号	項目	番号	項目
1	飲食業	6	土木系
2	販売業	7	オフィスワーク
3	その他サービス業	8	医療・福祉系
4	塾・家庭教師	9	派遣
5	製造業	10	その他

e)余暇活動

大学生が余暇の時間の過ごし方に関する設問である。大学志望動機、大学生生活満足度、地域に対する評価、大学所在地の場所性などとの関連性を考慮し、表-4 に示す 13 項目を設定し、活動頻度は「(ほぼ) 毎日」「週に 3, 4 回程度」「週に 1, 2 回程度」「月に 1, 2 回程度」「年に 1, 2 回程度」「全く無し」の 6 段階を設定した。

表-4 余暇活動項目

番号	項目	番号	項目
1	家の中ですごす	8	飲み会をする
2	学校の課題をする	9	買い物をする
3	地域活動に参加する	10	図書館を利用する
4	散歩する	11	映画館・美術館等へ行く
5	ドライブをする	12	スポーツをする
6	観光をする	13	娯楽施設を利用する
7	外食をする		

f)交通手段

大学所在地や周辺の交通環境を把握することと、交通環境に対する学生の意識との関連性を分析、考察する為、交通手段についての問を設定した。通学、サークル・部活動、アルバイト、余暇活動、日常の買い物について、よく利用する交通手段として表-5 に示す 12 項目と「その他」を設定した。ただし、一度の外出で複数の交通手段をとる場合は「2+9」のように「+」で繋げて回答するとした。

表-5 交通手段

番号	項目	番号	項目
1	徒歩	7	路線バス
2	自転車	8	学バス
3	バイク(原付を含む)	9	鉄道
4	自家用車(本人・家族所有)	10	地下鉄
5	自家用車(友人所有)	11	路面電車
6	レンタカー	12	新交通(モノレール等)

g)地域に対する評価

大学生の所属する大学の所在地に対するアンケート時点での意識に関する設問である。表-6 に示す 5 項目について「非常に思う」「やや思う」「あまり思わない」「全く思わない」の四者択一とした。

表-6 地域に対する評価項目

番号	項目
1	卒業後も住みたい
2	卒業してしばらくしたら戻ってきたい
3	自分の子供に住ませたい
4	自分の両親に住ませたい
5	知人に薦めたい

h)属性について

性別、学年、所属学部・学科、出身地、居住形態、移動手段となる所有物、通学時間について問を設定した。居住形態は自宅、一人暮らし、寮、親戚・知人宅、ルームシェア、その中から選択させ、所有物の項目では自転車、バイク(原付)、自動車を所有しているかという問を設定した。

7. アンケートについて

(1)実施時期

意識調査の調査期間は 2007 年 11 月下旬から 2008 年 1 月上旬の間に実施した。

(2)実施方法

アンケート調査は各大学の先生方の協力を得て、講義の開始前もしくは終了後に学生にアンケート調査票を配布し回答してもらった。本研究では、740 件の回答、716 件の有効回答、96.8%の有効回答率が得られた。

8. アンケートの調査結果

作成したアンケート調査票により、山梨大学、早稲田大学、一橋大学、拓殖大学、信州大学、筑波大学の学生を対象に意識調査を行った。得られたデータを単純集計した結果を、属性、志望大学選定理由の影響度、大学生生活満足度、サークル・部活動、アルバイト、余暇活動、交通手段、地域に対する評価の順で示す。

(1)属性について

a)性別構成

各大学の性別構成のデータを抽出しグラフ化したものを図-2 に示す。

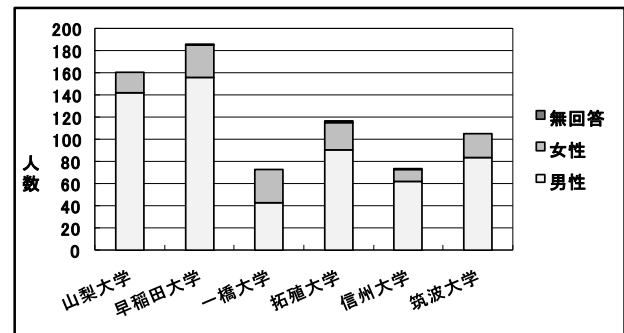


図-2 性別構成 各大学

b)学年構成

各大学の学年構成のデータを抽出しグラフ化したものを図-3 に示す。

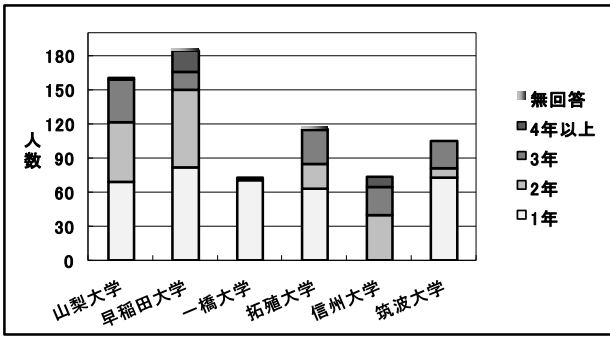


図-3 学年構成 各大学

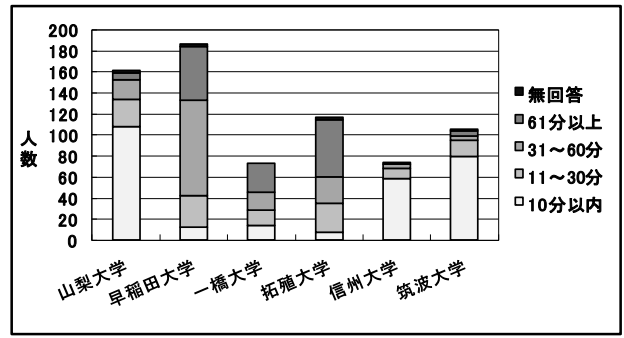


図-6 通学時間 各大学

c)生活形態

各大学の生活形態のデータを抽出し、グラフ化したものを図-4に示す。

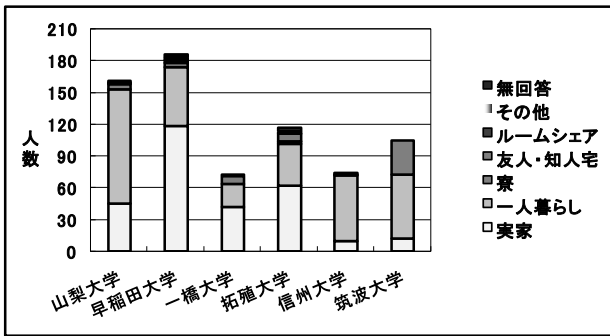


図-4 生活形態 各大学

d)乗り物所有率

各大学の乗物所有率のデータを抽出し、グラフ化したものを図-5に示す。

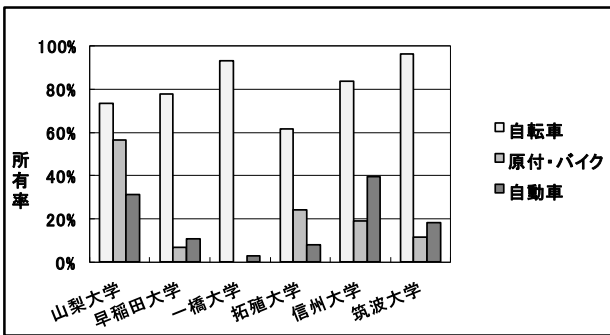


図-5 乗物所有率 各大学

e)通学時間

各大学の通学時間のデータを抽出し、グラフ化したものを図-6に示す。

(2)志望大学選定理由の影響度

調査で得られた大学別の志望大学選定における各項目の影響度を図-7に示す。影響度とは、「非常に影響を受けた」「影響を受けた」「あまり影響を受けなかった」「全く影響を受けなかった」の回答にそれぞれ3点、2点、1点、0点を与え、平均をとったものである。影響の度合いが大きいほど大きな値を示し、最大値は3、最小値は0、中心値は1.5である。

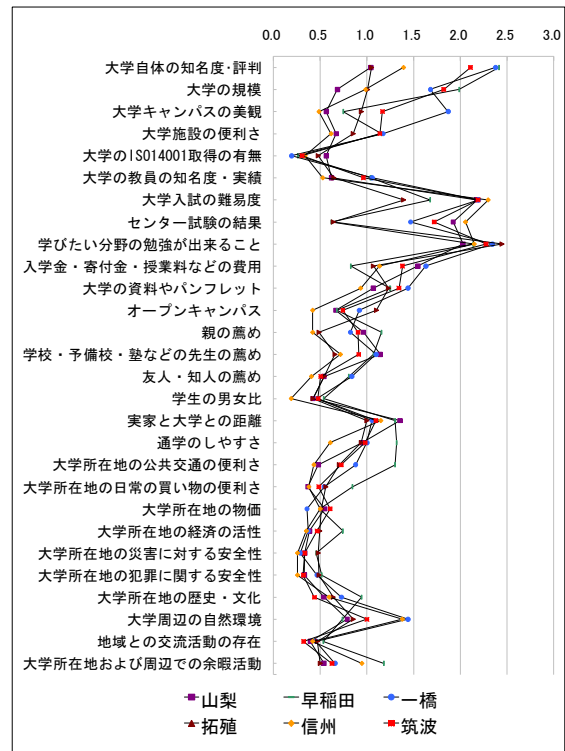


図-7 各項目の影響度

(3)大学生生活満足度

調査で得られた大学生生活での各項目の満足度を図-8に示す。満足度数とは、「非常に満足している」「満足している」「不満である」「非常に不満である」の回答にそれぞれ+2点、+1点、-1点、-2点を与えて平均をとったものである。満足度数が大きいほどより満足していることを示す。値が正の場合満足、値が負の場合不満傾向にあることを示す。

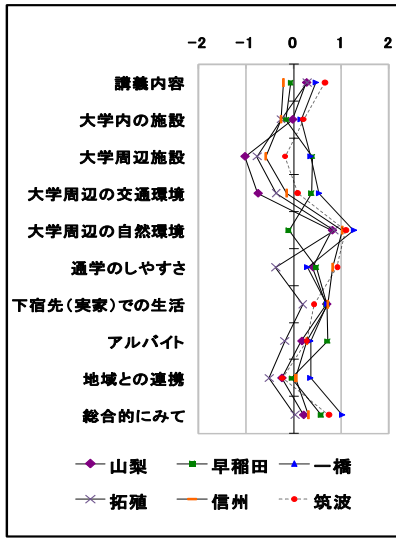


図-8 各項目の満足度

(4)サークル・部活動

a) サークル・部活動所属件数

各大学のサークル・部活動所属件数のデータを抽出しグラフ化したものを図-9 に示す。

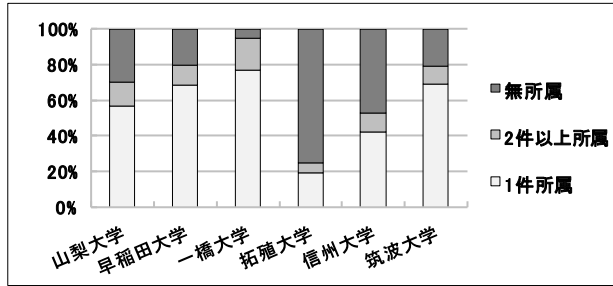


図-9 サークル・部活動所属件数 各大学

b)サークル・部活動の系

各大学のサークル・部活動の系についてのデータを抽出しグラフ化したものを、図-10 に示す。

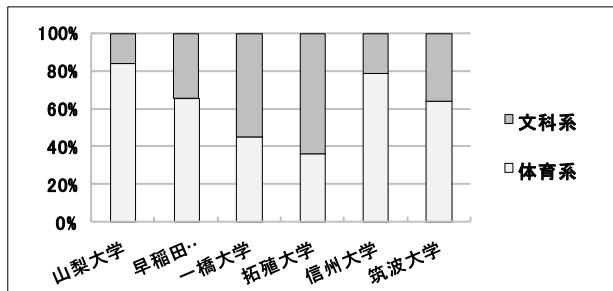


図-10 サークル・部活動の系 各大学

(5)アルバイト

a)アルバイト従事件数

各大学のアルバイト従事件数のデータを抽出しグラフ化したものを図-11 に示す。

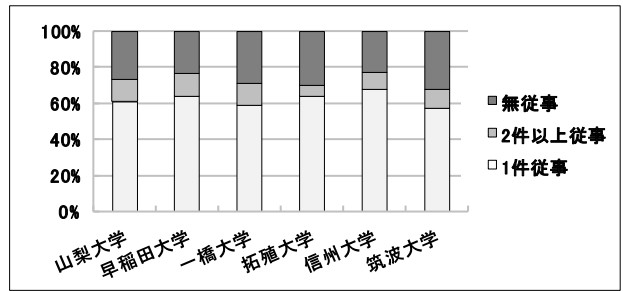


図-11 アルバイト従事件数 各大学

b)アルバイトの職種

各大学のアルバイトの職種のデータを抽出しグラフ化したものを図-12 に示す。

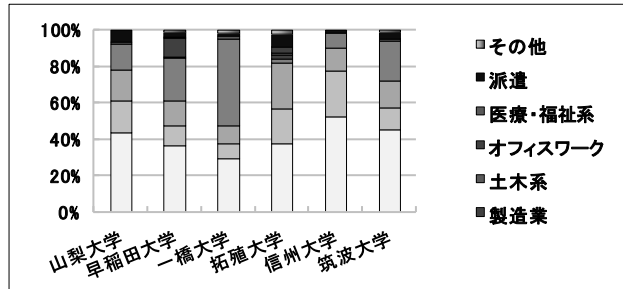


図-12 アルバイト職種 各大学

(6)余暇活動

a)余暇活動頻度

各大学の余暇活動の活動頻度のデータを抽出しグラフ化したものを図-13 に示す。

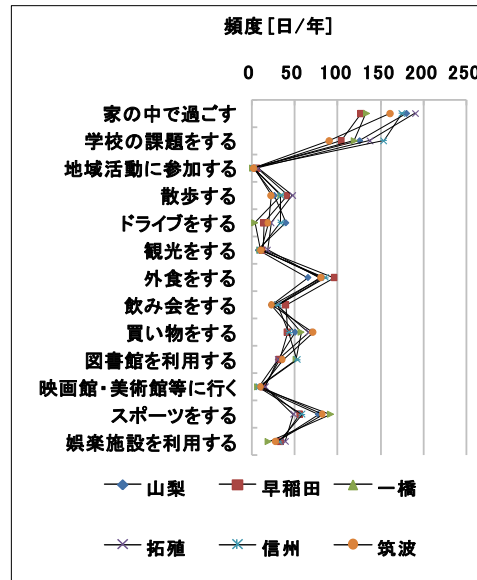


図-13 余暇活動頻度 各大学

b)余暇活動内容

各大学の余暇活動内容のデータを抽出しグラフ化したものを図-14 に示す。

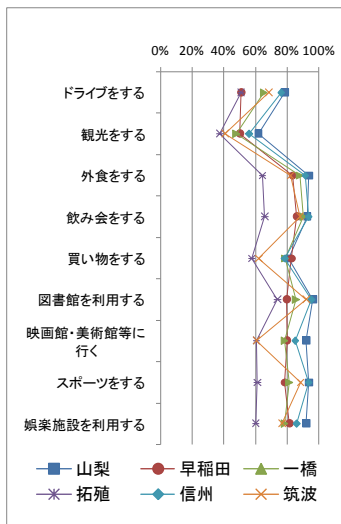


図-14 余暇活動内容 各大学

(7)交通手段

各大学の交通手段のデータより、通学、サークル・部活動、アルバイト、余暇活動、買い物の平均値をグラフ化したものを図-15に示す。

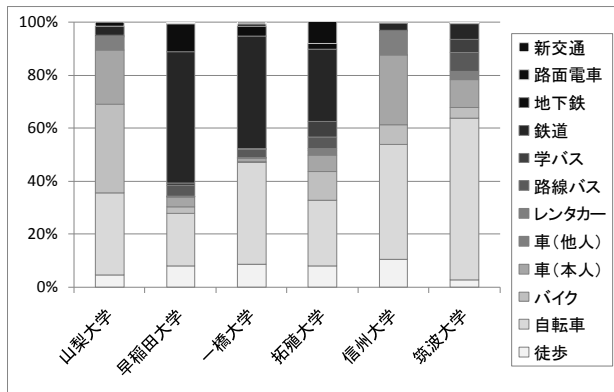


図-15 交通手段 全大学

(8)地域に対する評価

各大学の大学所在地に対する評価のデータをグラフ化したものを図-16に示す。

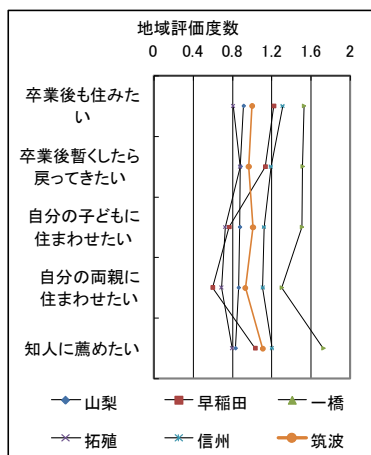


図-16 地域に対する評価 全大学

(1)単純集計

a)各大学の傾向

志望大学選定理由の影響度について、全大学の傾向を見るために、全大学の影響度平均を算出した。影響度の高い項目順に並べたものを図-11に示す。

図-17より、多くの項目で中心値より低い評価が得られており、特に「大学所在地の犯罪に対する安全性」「大学所在地の災害に対する安全性」「大学のISO14001取得の有無」などの評価が低かった。一方、「学びたい分野の勉強ができること」「大学入試の難易度」「大学の知名度・評判」などの評価が高かった。

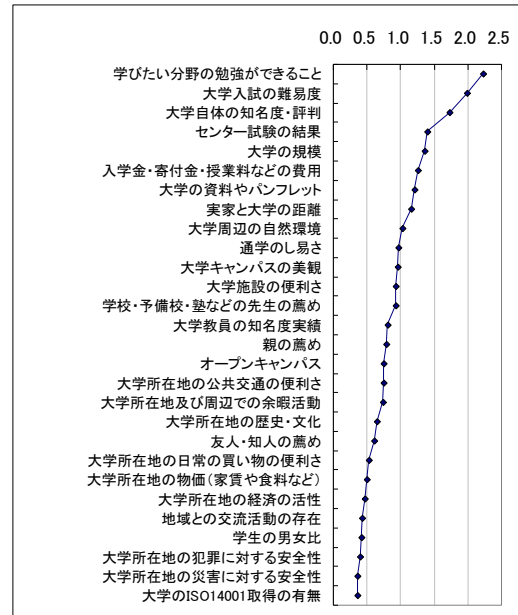


図-17 志望大学選定理由の影響度

b)大学間での違い

各質問項目での大学間の違いを見るために一元配置の分散分析を行った。その結果を表-7に示す。

表7 基本分析

	F値	p値	寄与率	備考
大学の知名度・評判	94.280	0.000	39.90	※※
大学の規模	74.654	0.000	34.46	※※
大学キャンパスの美観	37.868	0.000	21.05	※※
大学の規模ISO14001取得の有無	11.718	0.000	7.65	※※
大学教員の知名度実績	6.304	0.000	4.31	※※
大学入試の難易度	9.161	0.000	6.13	※※
センター試験の結果	17.953	0.000	11.25	※※
学びたい分野の勉強ができること	45.957	0.000	24.76	※※
入学金・寄付金・授業料などの費用	4.122	0.001	2.83	※※
大学の資料やパンフレット	14.757	0.000	9.43	※※
オープンキャンパス	3.559	0.003	2.45	※※
親の薦め	6.350	0.000	4.28	※※
学校・予備校・塾などの先生の薦め	11.757	0.000	7.65	※※
友人・知人の薦め	5.246	0.000	3.57	※※
大学の経済の活性	5.252	0.000	3.57	※※
学生との交流活動の存在	3.351	0.005	2.31	※※
実家と大学の距離	2.238	0.049	1.56	※※
通学のし易さ	6.054	0.000	4.10	※※
大学所在地の公共交通の利便性	21.791	0.000	13.34	※※
大学所在地の日常の買い物の利便性	9.044	0.000	6.01	※※
大学所在地の物価	1.099	0.360	0.77	※
大学所在地の経済の活性	6.813	0.000	4.59	※※
大学所在地の犯罪に対する安全性	2.687	0.020	1.86	※※
大学所在地の災害に対する安全性	3.641	0.003	2.51	※※
大学所在地の歴史・文化	7.173	0.000	4.82	※※
大学周辺の自然環境	10.322	0.000	6.79	※※
地域との交流活動の存在	1.768	0.117	1.23	※
大学所在地及び周辺での余暇活動	14.637	0.000	9.39	※※

9. アンケート分析

大学間においてほとんどの質問項目で、1%の危険率で有意であると出ているが、ここではさらに寄与率の値で判断した。寄与率の値が10以上の項目は「大学自体の知名度・評判」「大学の規模」「大学キャンパスの美観」「大学入試の難易度」「センター試験の結果」「大学所在地の公共交通の便利さ」であり、これらの中で最小の「大学入試の難易度」の値は11.25であり、次に大きい「入学金・寄付金・授業料などの費用」の値が9.43なので、これらの項目で大学間に差があると判断できる。一方、他の質問項目と比較して寄与率の値が小さく、またp値の値が大きい「大学所在地の物価」「地域との交流活動の存在」は大学間に差がないと判断でき、これらは1%の危険率では有意ではないという結果になっている。

また、全大学での志望大学選定理由の影響度の構造を検討するために行った因子分析結果を表-8に示す。表-8では、因子負荷量 \geq 絶対値0.4を基準に抽出したものを太枠で囲んだ。バリマックス回転を適用し、7因子を抽出した。第1因子は「大学の立地」、第2因子は「大学のイメージ」、第3因子は「大学の実態」、第4因子は「交通環境」、第5因子は「第三者の薦め」、第6因子は「大学周辺の地域」、第7因子は「入試」をそれぞれ示していると解釈できる。

表8 意識評価の構造（因子分析）

変数	平均値	標準偏差	因子負荷量						
			I	II	III	IV	V	VI	VII
大学所在地の災害に対する安全性	0.360	0.567	0.774	0.009	0.166	0.047	0.094	0.192	-0.074
大学所在地の犯罪に対する安全性	0.400	0.594	0.721	0.023	0.167	0.078	0.116	0.240	-0.067
大学所在地の経済の活性	0.500	0.699	0.674	0.201	0.023	0.056	0.194	0.187	-0.003
大学所在地の物価（家賃や食料など）	0.500	0.714	0.658	0.017	0.171	0.067	0.084	-0.021	0.103
大学所在地の日常の買い物の便利さ	0.540	0.729	0.646	0.324	-0.007	0.208	0.121	0.067	-0.027
学生の男女比	0.440	0.633	0.401	0.157	0.116	0.111	0.274	0.049	0.110
大学のISO14001取得の有無	0.360	0.621	0.311	-0.105	0.269	0.022	0.040	0.155	-0.031
大学の規模	1.360	1.012	0.090	0.763	0.164	0.068	0.071	0.038	-0.059
大学自体の知名度・評判	1.730	0.984	0.030	0.652	0.096	0.091	0.224	0.089	-0.024
大学施設の便利さ	0.940	0.827	0.203	0.520	0.420	0.128	0.004	0.101	0.004
大学教員の知名度	0.800	0.827	0.165	0.341	0.278	0.048	0.165	0.274	0.022
大学の資料やパンフレット	1.210	0.923	0.082	0.171	0.541	0.089	0.160	0.037	-0.045
大学キャンパスの美観	0.890	0.865	0.138	0.483	0.503	-0.026	-0.038	0.087	0.070
入学金・寄付金・授業料などの費用	1.230	0.975	0.119	-0.025	0.495	0.106	0.104	-0.034	0.203
オープンキャンパス	0.750	0.933	0.134	0.118	0.433	0.090	0.181	0.129	-0.236
学びたい分野の勉強ができること	2.210	0.858	0.021	0.163	0.394	0.290	-0.045	0.078	-0.007
通学のし易さ	1.000	1.017	0.191	0.157	0.128	0.889	0.134	0.047	-0.052
実家と大学の距離	1.180	1.090	0.077	0.020	0.142	0.740	0.141	0.071	0.030
大学所在地の公共交通の便利さ	0.780	0.878	0.412	0.412	0.043	0.481	0.101	0.081	-0.039
親の薦め	0.870	0.951	0.083	0.097	0.099	0.174	0.667	0.043	-0.066
友人・知人の薦め	0.610	0.796	0.233	0.104	0.038	0.037	0.603	0.108	0.032
学校・予備校・塾などの先生の薦め	0.960	0.970	0.127	0.047	0.067	0.055	0.551	0.040	0.056
地域との交流活動の存在	0.430	0.626	0.525	0.059	0.131	0.077	0.162	0.542	-0.040
大学所在地の歴史・文化	0.670	0.817	0.391	0.165	0.152	0.063	0.155	0.530	-0.015
大学周辺の自然環境	0.930	0.967	0.291	0.091	0.393	0.040	0.013	0.457	0.106
大学所在地及び周辺での余暇活動	0.770	0.900	0.415	0.256	-0.008	0.156	0.090	0.417	-0.031
センター試験の結果	1.330	1.223	0.044	-0.122	-0.008	-0.700	0.000	-0.015	0.784
大学入試の難易度	1.950	0.984	-0.038	0.065	0.037	0.038	0.039	0.024	0.606
固有値			3.794	2.220	1.845	1.779	1.534	1.276	1.153
寄与率 (%)			13.551	7.930	6.590	6.353	5.477	4.557	4.117
累積寄与率 (%)			13.551	21.481	28.071	34.424	39.901	44.457	48.575

注 因子抽出法：主因子法

回転法：Kaiserの正規化を伴うバリマックス法

(2) クロス集計

大学間で差が表れると予測した項目について、それぞれ次に示す内容で相関係数の差を計算し、表-9に示す4段階により判定した。その結果を表-10に示す。

a) 性別にみた志望大学選定理由の影響度の相関比較

志望大学選定理由の影響度について、男性と女性のデータでそれぞれ相関を求め、比較した。

b) 出身地別にみた志望大学選定理由の影響度の相関比較

志望大学選定理由の影響度について、大学所在都道府県出身者と外部から転入してきた学生のデータでそれぞれ相関を求め、比較した。

c) 暮らしにみた大学生生活満足度の相関比較

志望大学選定理由の影響度について、実家暮らしをしている学生とそれ以外の学生に分けの比較と不満に感じ

ているグループのデータでそれぞれ相関を求め、比較した。

d) 公共交通にみた大学生生活満足度の相関比較

大学生生活満足度に対する影響度について、通学に公共交通を利用している学生と利用していない学生のデータでそれぞれ相関を求め、比較した。

e) 通学時間にみた大学生生活満足度の相関比較

大学生生活満足度に対する影響度について、通学時間が10分以内の学生と10分以上の学生のデータでそれぞれ相関を求め、比較した。

f) 性別にみた大学生生活満足度の相関比較

大学生生活満足度に対する影響度について、男性と女性のデータでそれぞれ相関を求め、比較した。

g) 出身地別にみた大学生生活満足度の相関比較

大学生生活満足度に対する影響度について、大学所在都道府県出身者と外部から転入してきた学生のデータでそれ

ぞれ相関を求め、比較した。4段階に分けて得られた結果を表-10に示した。

表9 意識評価の構造 (因子分析)

記号	相関係数の差の分布	意識の差
◎	0.5以上の差が1つ以上ある	ある
○	0.3以上の差が1つ以上ある	ややある
△	0.1以上の差が1つ以上ある	あまりない
×	0.1以上の差がない	殆どない

表10 意識評価の構造 (因子分析)

項目	山梨	信州	早稲田	一橋	拓殖	筑波
性別にみた志望大学選定利用の影響度について	×	○	△	○	○	○
出身地にみた志望大学選定理由の影響度について	×	△	×	×	×	×
暮らしにみた大学生生活満足度について	×	△	×	×	×	×
公共交通にみた大学生生活満足度について	×	△	×	×	×	△
通学時間にみた大学生生活満足度について	×	△	△	×	×	×
性別にみた大学生生活満足度について	×	○	△	○	△	△
出身地にみた大学生生活満足度について	×	△	×	×	×	×

(3) 考察

志望大学選定理由の影響度において、地域に関する項目の影響度は低いことは、学生側の興味が地域に向いていない現状であるといえる。

一橋大学と筑波大学では「大学キャンパスの美観」と「大学周辺の自然環境」が志望大学選定理由に影響があると共に、両大学では「大学キャンパスの美観」と「大学周辺の自然環境」の間にかかなりの相関があった。このことから、「大学キャンパスの美観」や「大学周辺の自然環境を良くすること」は、学生にとって魅力的なことであり志望大学選定理由に影響を与えたと考えられる。

大学生生活満足度において、「大学生活における地域との連携」という項目で、ほとんどの学生が満足していないという傾向から、大学に入ってから学生による地域活動の参加が定着していないというのが考えられる。

「大学周辺の自然環境」という項目で、ほとんどの大学が満足傾向にあること、その中でも特に一橋大学の評価が最も高かったことから、住宅地にある文教地区という地域特性というものがあることが満足度につながっていたのではないかと考えられる。

地域に対する評価において、一橋大学と信州大学が全項目について比較的高評価を得ていることから、ある程度の都市規模があり、かつ自然環境が豊かな地域だと、地域に対する評価が高くなるということが考えられる。また、早稲田大学と一橋大学では、「自分の両親に住まわせたい」という項目では低評価だったが、知人に勧めたいという項目については高評価をしていたことから、大学生生活にはかなり適した地域になっていると考えられる。

最後に、交通手段について地方の大学では都市部の大学に比べ公共交通の割合が低く、また大学周辺施設の交通環境の満足度というのが大学周辺施設の満足度の分布

に似ていたことから交通の便の悪さというものが大学生生活の満足度を下げている要因となっていると考えられる。

10. 結論

志望大学選定理由の影響度における28項目の質問項目の意識評価データの因子分析より、志望大学選定理由の影響度の構造が、「大学の立地」「大学のイメージ」「大学の実態」「交通環境」「第三者の薦め」「大学周辺の地域」「入試」の7因子に記述されることを確認した。

学生の興味があまり地域に向いていない事と、「地域との連携」について、殆どの大学が不満傾向であったために大学に入ってから学生による地域活動の参加が定着していないことが考えられる。

志望大学選定理由の「大学周辺の自然環境」と大学生生活満足度「大学周辺の自然環境」について、都会に存在する大学でも、十分な緑があるならば、高い評価を示すことがいえる。

満足度については大学間での差が表れやすく、全体的にみると自然環境に対して満足している学生が多く、一方で、「大学周辺施設、大学周辺の交通環境では大学間での差が顕著に表れた。学生からの評価が高い地域の特徴は、交通網や周辺施設が充実していること。自然環境が整っていることが主に挙げられた。

以上のことから、学生が大学入学前と入学後において地域への意識の変化が、あまり見られなかったことと、異なる地域に立地する大学を比較することで地域の環境が学生の意識や評価に影響することを確認した。

参考文献

- 1) 李彰浩：大学が主体となる大学まち再生に関する研究，日本建築学会計画系論文集 第603号，131-138，2007